

予防接種について

市内の予防接種医療機関
リストについてはコチラ▶



★ 予防接種

問 こども政策課・助成係 ☎095-829-1270

接種の対象年齢になったら早めに受けてください。赤ちゃんがお母さんからもらった免疫(病気に対する抵抗力)は、3か月くらいから自然に失われていきます。予防接種の必要性をよく理解し、お子さんの体調のよい時に受けましょう。

定期予防接種スケジュール

種類	対象年齢	2 3 6 9 か か か か 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 月 月 月 月 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳 歳																	
BCG(結核)	生後1歳未満	1回 注①																	
五種混合 百日せき ジフテリア 破傷風・ポリ オ・ヒブ	2か月～7歳6か月未満	初回3回・追加1回			注②														
二種混合 ジフテリア 破傷風	11歳～13歳未満												1回						
麻しん・風しん・混合 (MR)	1歳～2歳未満 5歳から7歳未満で小学 校就学前の1年間					1回						1回							
日本脳炎	6か月～7歳6か月未満 9歳～13歳未満						初回2回・追加1回				1回								
	平成7年4月2日から平 成19年4月1日までに 生まれた方で20歳未満												4回		注③				
小児の肺炎球菌感染症	2か月～5歳未満	接種回数は開始時期により異なる 注④																	
ヒトパピローマ ウイルス感染症 (子宮頸がん)	小学6年生から高校1年 生相当の年齢にあたる 女子 注⑤												2回または3回		注⑥				
水痘(水ぼうそう)	1歳～3歳未満					2回													
B型肝炎	生後1歳未満	3回																	
ロタ	ロタリックス (1価) 出生6週0日後～ 出生24週0日後	2回																	
	ロタテック (5価) 出生6週0日後～ 出生32週0日後	3回																	

かげえのクイズ

もんだい かげとおなじかたちのどうぶつをさがしてみよう!



1



2



3



4





- 注① ただし、生後2か月以降で体重が4kgに達している者を接種対象者とします。
- 注② 令和6年4月1日から五種混合(四種混合+ヒブワクチン)が定期接種として追加されました。
- 注③ 日本脳炎の予防接種は、その安全性を確認する目的から、積極的勧奨を差し控えていた期間(平成17年～21年)がありました。
その期間に接種対象だった人のうち、平成7年4月2日～平成19年4月1日までに生まれたかたは接種を受けることのできる期間が拡大され、無料で受けられます。母子健康手帳などをご確認のうえ、20歳になる前に接種を完了してください。
- 注④ 生後2か月から7か月未満の間で開始した場合は4回、生後7か月から生後12か月未満の間で開始した場合は3回、1歳から2歳未満の場合は2回、2歳から5歳未満の間で開始した場合は1回となっています。
- 注⑤ 長崎市に住民登録があり、平成9年4月2日から平成20年4月1日生まれの女子で過去にワクチン接種を合計3回受けていない方は、不足分を無料で接種することができます。無料で接種することができる期間は令和7年3月31日までです。
なお、接種は合計3回で、完了するまでに約6か月間かかるため、接種を希望する方は、お早めの接種をご検討ください。
- 注⑥ 接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります。

任意予防接種スケジュール

種類	対象年齢	接種方法
乳幼児インフルエンザ 注①	生後6ヶ月以上小学校入学前までの乳幼児	2回接種 1週間から4週間の間隔を置いて、原則として2回接種 注②

- 注① 実施時期は毎年度10月から2月までです。
- 注② 1回につき1,750円保護者負担(令和5年10月現在)となります。ただし、市民税非課税世帯、生活保護受給世帯の方は証明書を医療機関に提示する場合は、負担はありません。
負担額等は変更になることがありますので、事前にご確認ください。

※実施している予防接種の種類等については事前に医療機関へお尋ねください。
※長崎県外での接種について助成しています。事前に手続きが必要です。

コラム Column

乳幼児突然死症候群って何？

SIDS (Sudden Infant Death Syndrome) = 乳幼児突然死症候群
 それまで元気だった赤ちゃんが、事故や窒息ではなく睡眠中に突然死亡する病気です。日本では、およそ6,000人～7,000人に1人の赤ちゃんがこの病気で亡くなっていると推定されています。生後2カ月～6カ月に多く、まれに1歳以上でも発症することがあります。

SIDS から赤ちゃんを守るためのポイント

SIDSの原因はまだわかっていませんが、「うつぶせ寝は避ける」「両親が煙草をやめる」「できるだけ母乳で育てる」といったことで発症リスクの低減が期待されています。



予防接種について

ななかまわけのクイズ

もんだい ちがうなかまをさがしてみよう!

1

2

3

4

5

(イラスト: 5/5)